

しおさい



早春の野牛川源流

CONTENTS

- 特集記事 シリーズ⑩ ふるさと見聞録：老部を訪ねて……………2
- 明日へのかけはし：東通村読み聞かせサークル「めんこちゃん」……………4
- ファイト!わんぱく：東通小学校男子ミニバスケットボール部……………4
- クローズアップ こんにちは元気さん：高屋敷さえ子さん……………5
- 地元の特派員レポート：川島秀帆さん／奥島ちひろさん／三國智紘さん……………6
- 達人がつくる簡単料理!：東通産ほたてと季節の野菜の包み焼き……………6
 - 東通産春掘りアビオス(ほど芋)のニョッキ風……………6
 - 東通産春掘りアビオス(ほど芋)だんごのあんかけ……………7
- 発電所インフォメーション……………8

vol.12
平成25年7月発行

東北電力(株)東通原子力発電所

稚魚放流事業で村の漁業に貢献!

おいっぺ

老部を訪ねて

一致団結して人事を尽くす、協力心の強い集落!

東通村、南東部の集落・老部は、長い砂浜が続く太平洋の海岸線に沿って発達した集落です。

「老部」は、アイヌ語で「群れ居る川」という意味。遠い昔、蝦夷人が住んでいたそうです。集落ができたのは17世紀後半から18世紀にかけて。木材伐採のために移住してきた人たちが暮らし始めたと伝えられています。伐採したひば材は、古くは老部川へ流して運んでいましたが、昭和初期には川沿いに8kmもの線路を造り、トロツコや機関車で運んだそうです。線路の途中にはマンガンを掘った山もあり、今もその穴が残されています。大正、昭和へと時代が移ると、林業は製材所や建設業へと発展していきました。現在の生業は、イカ漁や昆布漁などと会社勤めの兼業がほとんどです。



昔トロツコや機関車が通った道

また、享保時代(1720年頃)には集落に海水から塩を採るための塩釜があり、昭和に入ると、各家ではトタンで釜を作り、浜から海水を運んで塩を作っていたそうです。平成18年に新築した両皇神社は、正保4年に勧請。7月18日、19日、20日が祭典で、山車の運行も行われています。

老部には、部落会のほか、敬神会、婦人会、子ども会育成会、

老人クラブなどがあり活動も活発。お盆には盆踊り、小正月には田植餅つき踊りを行います。何をするにも互いに助け合い、協力し合い「足を引っ張らず手を引っ張る」あたたかい集落です。



両皇神社



かつて貯木場があった老部川河口付近



老部川内水面敷地内にある
鮭鱒供養塔



サケ・マスが遡上する老部川

地域に伝わる郷土芸能を、婦人会などの協力を得て80人の子もたちに学ばせています。稽古では踊り方だけでなく礼儀作法も指導します。子どもたちが、みんなで一緒に郷土芸能を習うことで、仲間意識が育ち、いじめの無い環境をつくりあげています。これからは学校跡地の整備などボランティア活動も行い、助け合いの気持ちを育てたいと思います。



老部子ども会育成会 会長
相内 真一さん(46歳)
(あいない しんいち)

地域に住むすべての人の幸せを願い、お正月の門打ちを毎年3日間かけて行っています。会員15人は仕事も違うので、みんなで集まるのは大変ですが、心をひとつに打ち習いなどを行い、子どもたちへお神楽や手踊りなどを伝承しています。

今後は一度途絶えた昔ながらの踊りを復活させ、地域で発表したいと考えています。



老部敬神会 会長
田畑 健蔵さん(70歳)
(たばた けんぞう)



老部川河口付近から老部集落を望む

つくり育てる漁業を実践する老部川内水面漁業協同組合

老部川河口付近にある、老部川内水面漁業協同組合は、村内で唯一、サケ、サクラマスなどのふ化と放流を行っている組合です。設立は昭和36年。老部川で玉砂利がとれた時代、業者による乱獲を防ぎ、地域の資源を残して内水面の権利を守ろうと青年団と年配者が中心となって結成されました。組合員は225人と県内一多く、老部のほとんどの世帯が加入。毎年、東通小学校の子どもたちに稚魚を放流させ、つくり育てる漁業を実践しています。



サケの稚魚に餌をやる職員 老部川に放流されたサケの稚魚



放流のため孵化場から稚魚を取り出す



老部部落会 会長

さかもと かずお
坂本 一雄さん(72歳)

何をするにも一つにまとまり協力心のある老部は、240世帯986人が仲良く生活しています。子供会連合会を最初に作り、子どもたちに郷土の芸能を伝承。婦人会活動も活発で、震災の時は率先して炊き出しを行ってくれました。老部は神社も新しくなり、トンネルもできてとても暮らしやすくなりました。現在、集落の拠点である南地区基幹集落センターの新築を働きかけているところです。地域に活気を与える、発電所の早期再稼働を切に望んでいます。これからも地区民が一致団結して住み良い集落を作っていきたいと思います。



今の時代、婚活など若い人たちは苦労しているようですが、青年団活動が活発だった頃は、盆踊り、夜学、演芸活動などで男女間の良好な交流が行われていました。いつか何とかして復活させて欲しいものです。

昔ほど子どもの声が聞こえなくなったのは淋しいですが、融和のとれた地域を、いつまでも保ち続けていきたいと願っています。



元部落会会長 監事
相内 正幸さん(79歳)
(あいな まさゆき)

サケとサクラマスを獲得して人工ふ化させ、稚魚の放流を行っています。ゼロからのスタートでしたが先輩たちの意志を受け継ぎ、県内でも屈指の組合になりました。組合員に直接還元はありませんが、つくり育てる漁業の大切さを理解し、村内で唯一の放流事業実践に誇りを持ってきています。今年はサケ1000万匹、サクラマス40万匹を放流しました。



老部川内水面漁業協同組合 組合長
坂本 石蔵さん(66歳)
(さかもと いしぞう)

明日への かけはし

東通村読み聞かせサークル
「めんこちゃん」

子どもたちに
本の楽しさを伝えたい!



東通村読み聞かせサークル「めんこちゃん」の皆さん

地元の子どもたちに、幼い頃から本に親しみ、豊かな心で育てて欲しいと活動しているのが、東通村読み聞かせサークル「めんこちゃん」です。

結成は、平成21年度。国が推進する赤ちゃん絵本を楽しむ「ブックスタート」を東通村でも平成17年度から開始。それに伴い、村が子どもたちに本を読むボランティアを募り、そこにつどった人たちが独自に活動を発展させてきました。

会員は、子育てが一段落し、読書が大好きというお母さん10人。中には、幼稚園や児童館に勤めていた人もいます。

主な活動は、村が行う0歳児健診などで絵本を紹

介し、マンツーマンで読み聞かせること。子どもの月齢に合わせて、どんな本を読んだらいいかなどアドバイスも行い、喜ばれています。

また、東通小学校で大型絵本や科学の絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊びなどを行って、本のおもしろさを伝えています。

このほか、読み聞かせのための勉強会を開いたり、研修会に参加して絵本作家から話を聞いたり、他の地域ではどんなことをしているか交流

なども行っています。

会長の竹林千加子さんは「読み聞かせは奥が深く、こちらの感情を押し付けずに本の魅力を伝えるのは大変ですが、子どもたちの『わあ〜』という反応にやって良かったという思いでいっぱいになります。今後は、子どもたちはもちろん、高齢者や大人向けの読み聞かせや、自分たちで絵本を作った『お面劇』にも挑戦したいです。そして本が好きな仲間を、もっと増やしていきたいと思います」と意欲を見せていました。



赤ちゃんとお対面して絵本を読みます



子どもたちの反応の良さににっこり



絵本に興味を示す赤ちゃん



東通小学校 男子ミニバスケットボール部

とにかく明るく、負けてもへこたれない、次に向けて頑張ろう!と元気いっぱいなチームが、東通小学校男子ミニバスケットボール部です。

部員は4年生から6年生までの27人。鈴木由香先生が指導にあたっています。結成5年目を迎え、昨年度の新人戦で念願の一勝を果たしました。

練習は、月、火、木、金曜日の午後3時から午後5時まで。ハンドリング、ドリブルシュート、パスからのシュート、

フリースローなど、限られた時間内に少しでも多くの技術をマスターしようと、実践を意識して行っています。

走る、飛ぶ、が基本のミニバスケットボールは、ひざの使い方など何のスポーツにも通用する種目。一勝したことで、もっと強くなりたいとみんな意欲満々です。

6年生で部長の渡部星矢君は「シュートを決めた時の気分は最高で、試合はとても楽しいです。誰かが間違っても、それをフォローして頑張れるよう、みんなを引っ張っていきたいと思います」といつも



ドリブルシュート!

アップ こんにちは 元気さん

元気さん

鮮度抜群の
有機野菜を直売する

たか や しき

高屋敷さえ子さん(76歳)

東通村で地産地消を目指して有機野菜を栽培。
無人直売所で採れたての野菜を販売する、高屋敷さえ子さんにインタビューしました。



朝、採ったばかりの、つぼみ菜、葉わさび、たらば……。上田屋にあるビニールハウスの前の小さな100円直売所には、新鮮な野菜がたくさん並んでいます。無人直売所を開いているのは高屋敷さえ子さん。ご主人の憲一さん(79)と息子の謙二さん(45)の3人で農業を営み、その傍ら、地元の人に新鮮な野菜を安く食べてもらいたいと直売所も開いているのです。

始めたのは今から3年前。「向かいの家の人が『こんなにいっぱい野菜作ってるんだから直売所をやって!村の人も安くて新鮮な野菜ならきつと喜ぶ』って、小屋建ててしまったんです」と高屋敷

さん。「無理だと言ったら『売れねばすぐに小屋持っていくから』って始めさせられてしまったんです」と笑います。

直売所に出す野菜は、毎日10種類から20種類。朝一番に野菜を収穫すると、鮮度を保つため袋詰めしたり、新聞紙に包んだり。午前9時から10時までには棚いっぱい並びます。

高屋敷さんの野菜作りのこだわりは、土作り。化学肥料は使っていないのです。

「以前は自前で土に昆布を入れたり手間ひまかけて作っていました。今は森林組合のおがくずに、東通牛の堆肥を混ぜて発酵させた有機質の肥料を村の産業振興公社が作り、それを無料でもらえるから本当に助かっています。自然のままの安心安全な土で作った

野菜は、やっぱり味が違うんですよ」
しかし、毎日たく



丹精込めて野菜を育てる高屋敷さん

さんの種類の野菜を提供するのは「ゆるぐね〜」と話す高屋敷さん。それでも「この野菜、おいしいって言われれば嬉しいし、棚が空になると『今日はもう無いの?』って後ろの畑をのぞきに来る人もいるんですよ」とにっこり。

「最近交通量も減ったし、害虫対策など苦労もあるけれど、自分たちが作った野菜を待っていてくれる人がいる限り、ずっと続けたいと思います」

気丈で、やさしい高屋敷さん。顔の見える農業の原点が、ここに存在しています。



上田屋の畑の前にある無人直売所



直売所には季節の新鮮な野菜がズラリ

前向き。鈴木先生は「ミニバスは頭を使うスポーツです。常に考えて行動し、厳しい練習に耐え、1人1人が試合で輝けるよう頑張るって欲しいですね」と話していました。



男子ミニバスケットボール部のみなさん



フリースローを学ぶ子どもたち



バスの練習に汗を流します



基礎の練習はしっかりと!

部長の
わたなべせいや
渡部 星矢君
(6年)





東通村各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

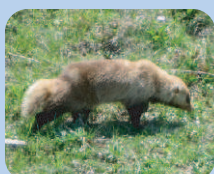
●写真は特派員が自ら撮影したものです。



尻屋の自然 が大好き

東通村尻屋在住
東通小学校(6年)
かわしま みつほ
川島 秀帆さん
(12歳)

私の住む東通村の北の端にある尻屋には、有名な灯台があり、寒立馬だけでなく、牛もいるし、キツネ、タヌキ、穴グマもいます。

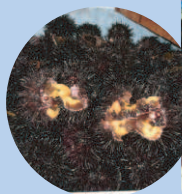


尻屋に生息するタヌキ

また、カラスは干潮時にウニをとって食べています。ですから、灯台への道路にはカラスが食べたウニのから



寒立馬の親子と尻屋埼灯台



丁寧に身を取り出します

が落ちているときがあります。

自然豊かな尻屋は動物だけではなく、海も豊かで四季折々の海の幸がとれます。

今は、ウニが旬なので、ウニのからをむくのが大変ですが、甘くてとっても美味しいです。生で食べたり、ホタテのからに入れて、焼いたり蒸したりして食べます。塩ウニにして出荷したりもします。

私は尻屋の自然や風景が大好きです。



尻屋漁港



人は温かく 自然豊かな 大利地区

東通村大利在住
おしま
奥島 ちひろさん
(29歳)

大利は戸数40余りの小さな集落ですが、人と自然に恵まれたとても魅力的な土地です。主な産業は農業と畜産業で、それに伴う四季折々の風景が楽しめるのも魅力のひとつです。

近年は、そば、そしてブルーベリーの生産・加工に力を入れており、中でも大利生活改善グループの皆さんが精力的に活動してくれています。

大利地区では、夏のシーズンに向けて



黒毛和牛の仔牛



大利生活改善グループの皆さんによるそば打ち

達人がつくる簡単料理!

東通産ほたと季節の野菜の包み焼き

〈材料〉(4人分)

ほたて8個、たまねぎ半分、アスパラ4本、ぶなしめじ1束、長芋3cm、栗(瓶詰)4個、ちんげん菜2枚、きぬさやえんどう8枚、バター40g、塩、こしょう各少々、オープンシート4枚

〈作り方〉

- ①オープンシートに、塩こしょうをふった食材を入れ、最後にバターをのせて包みます。
- ②200℃に予熱したオーブンで、12～13分焼けば出来上がり。



達人のワザ

野菜はお好みで、季節のものをいろいろ使って楽しみましょう。

東通産春掘りアピオス(ほど芋)のニョッキ風

〈材料〉(4人分)

アピオス400g、片栗粉100g、牛乳大さじ4、卵白1個分、たまねぎ半分、にんじん50g、アスパラ2本、ほたて4個、にんにく1かけ、オリーブオイル、ケチャップ、酒、塩、こしょう、各少々

〈作り方〉

- ①アピオスは7～8分塩ゆでします。
- ②ゆでたばかりの温かいアピオスに、卵白、片栗粉、牛乳を混ぜてつぶし、親指でニョッキの形を作り、3分ほどゆでます。
- ③たまねぎ、にんじん、アスパラ、ほたてを荒みじん切りにし、オリーブオイルとにんにくで炒めます。
- ④③に②を入れ、ケチャップ、酒、塩、こしょうで味付けすれば出来上がり。



達人のワザ

アピオスは、熱いうちにつぶすと作りやすいです。



大利の畑から釜臥山を望む

観光ブルーベリー農園の体質強化にも取り組んでいます。お客様が利用しやすい環境となるよう頑張っているのです、みなさん是非お越しください。



夏に向けて準備を進めるブルーベリー農園



白山姫神社



日本一 住みやすい ところ

東通村蒲野沢在住
みくに ちこう
三國 智紘さん
(70歳)

蒲野沢地区は現在、70戸程の民家と、258名の住人で、小・中学校の生徒16名の集落です。生計は、サラリーマン、公務員、パート、年金の現金収入での暮らして、畑作はほとんどの家で沢山作っていますが、自家用の作物です。田んぼは全部で60町歩ありますが、耕作しているのは1割程度で、これも自家用米か、親戚へのプレゼント米です。当地区の野山にはワラビ、ゼンマイ、ワサビ、キノコ、シドケ、フキ、ミズ等々数多くの恵みがあって、芋、カボチャ、ダイコン、豆類等々畑のものと合わせて、保存食にはことかきません。ありがたいことです。村には数百町歩の共有山林があり、毎年各家々で薪を切り出して暖の燃料^{だん}とか、煮炊きの燃料として大変重宝しています。おそらく数百年分以上あるのではと思います。

蒲野沢は歴史も古く、現在住んでいる方で石田宗十郎家では、24代以上前まで確認出来ます。



田んぼの溜め池(人工池)

約500年前ですね。姓の種類は、沢田家、石田家、賀佐家、蒲家、真賀家だけで



半数を占めます。ほとんどの家々が親戚みたいなもので、それだけに皆さん大変仲がよく助け合い精神が強く、特に旅人(外部の人)には優しく、よくよそへ行って耳にすることは皆さん「蒲野沢へ行けばほっとする」「安心する」「実家へ帰ったみたい」「言葉が優しい」等々うれしくもあり、誇りに思うことが多々あります。いつまでもこの土地と環境、そして住民の優しい人柄の精神を受け継ぎ、守っていききたいものと思っています。



法林寺



八幡宮

東通産春掘りアピオス(ほど芋)だんごのあんかけ

〈材料〉(4人分)

【だんご材料】アピオス400g、バター20g、とろけるチーズ40g、片栗粉80g、卵白1個分、牛乳大さじ2

【だんごの中に入れるあん材料】たまねぎ半分、にんじん40g、アスパラ4本、ほたて4個、お湯大さじ4、塩、こしょう、醤油

【あんかけ材料】水200cc、塩2つまみ、ほんだし、醤油、酒、みりん、水とき片栗粉各少々

〈作り方〉

①アピオスは7～8分塩ゆでします。

②ゆでたばかりのアピオスに、バター、とろけるチーズ、卵白、牛乳、片栗粉を混ぜてつぶし、だんごの生地を作ります。

③たまねぎ、にんじん、アスパラ、ほたてを荒みじん切りにして油で炒め、塩、こしょう、お湯、醤油を加え、最後に水とき片栗粉を加えます。

④②で作った、だんごの生地を8等分し、その中に③のあんを入れて包み、蒸し器で5～6分蒸します。

⑤水200cc、塩2つまみ、ほんだし、醤油、酒、みりん少々を混ぜて沸騰させ、最後に水とき片栗粉でとろみを付けます。

⑥蒸しただんごを盛りつけし、⑤をかけて出来上がり。



今回の達人



鯨うえ乃

うえの ひろゆき

店主 上野裕幸さん(58歳)

●プロフィール

むつ市出身。地元の高校を卒業と同時に三沢と東京の寿司屋で修行。むつ市内で寿司職人として働いた後、20年前に独立。地産地消を信条に地元の鮮魚を使い、大間産マグロが味わえる店として知られている。

達人のワザ だんごの生地は最初に少し残しておいて、包むときに割れたら使いましょう。

発電所
トピックス

防潮堤の本体工事が完了しました

東通原子力発電所は、東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえた津波浸水対策として、平成24年3月16日より高さ約3m(海拔約16m)、長さ約2kmの防潮堤の設置工事を進めておりましたが、平成25年5月29日に防潮堤の本体工事が完了しました。

現在、防潮堤の保護工事などを実施しており、平成25年11月頃に完成する予定です。

東通原子力発電所で想定される津波の高さは、最大で約10.1mと評価※しており、敷地高(海拔約13m)を超えることはないと考えておりますが、防潮堤の設置により、浸水対策の強化につながり、発電所の安全性・信頼性がさらに高まりました。

※:想定津波高(10.1m)について

東北地方太平洋沖地震の知見を踏まえ、太平洋の北海道から東通原子力発電所の敷地の沖合にかけて4つの断層モデルを想定し、これらが連動した場合の最大の津波高を評価しました。

海拔4m地点から撮影



本体工事開始前(H24. 3)



本体工事完了後(H25. 5)

発電所
トピックス

元東通原子力発電所長 渡部 孝男が 世界原子力発電事業者協会(WANO)より原子力功労者賞を受賞

当社は、5月21日、世界原子力発電事業者協会(WANO※)原子力功労者賞を受賞しました。同賞は、原子力発電所の安全な運営に卓越して貢献した人物を対象に授与される賞で、日本人としての受賞は2例目となります。

今回の受賞は、東日本大震災時における女川原子力発電所の取り組みが評価され、当時女川原子力発電所長であった渡部孝男が代表として受賞したものです。尚、渡部孝男は平成19年6月から平成21年6月まで、東通原子力発電所長として在籍していました。

【受賞理由】

- ・女川原子力発電所が日頃から緊急時の対応をはじめとした事前準備に備えてきたこと。
- ・過去に例をみない巨大地震と津波にもかかわらず、女川原子力発電所の3基全てを安全に冷温停止に導いたこと。
- ・東日本大震災で被災した地域の方々を受入れ、地域とともに困難を乗り越えたこと。

※:世界原子力発電事業者協会(WANO)

1986年に起きたチェルノブイリ原子力発電所の事故を契機に、原子力発電事業者が相互に情報交換や技術支援を行うことにより、原子力発電所の安全性や信頼性を最大限に高めることを目的として、1989年に設立された国際的な民間組織。



授与式の模様(リガルト議長より授与)
提供:電気新聞

女川原子力発電所に避難された方々に対して、東通村からソバの差し入れをいただきました。



温かい「特製のつゆ」で振舞われました
(2011/4/14女川原子力発電所内にて)

発行

東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。



この冊子は、環境にやさしい「植物性大豆油インキ」「環境木」を使用しています。

編集後記

『達人がつくる簡単料理』で上野さんからご紹介いただいた《アピオス》を皆さんはご存知でしたか?青森県出身の私ですが、恥ずかしながらアピオスの存在を知りませんでした。早速アピオスを購入し、妻に手ほどきを受けながらニョッキ風を作ってみました。全く料理をしない私にでも簡単においしく作ることができましたので、皆さんも作ってみてはいかがでしょうか。

これからも皆さまに愛読される広報誌を目指してまいりますので、ご支援お願いいたします。